

## 令和元年度事業報告

県連は、各単位会の円滑な運営並びに事業の充実が図られるよう各種支援を行い、以下の活動を実施した。

### 1. 公益目的事業の活動支援

次世代を担う児童・生徒に税の仕組みなどを理解してもらうため、青年部会は「租税教室」を、女性部会は「税の絵はがきコンクール」を実施し、質量ともに向上を図った。また、女性部会は学校教育の一助となるよう「雑巾の寄贈」活動も行った。

特に、元年度からの新たな取組みとして、全国に先駆け「財政健全化のための健康経営プロジェクト」を開始した。青年部会が中心となりセミナー等を開催し、まずは県内企業への浸透を図った。

### 2. 組織運営と財政基盤の強化

全国的に会員数の減少が叫ばれるなか、鹿児島県連では前年度において会員数を大きく増やしたが、元年度においては会員数が減少となった。

福利厚生制度の推進については、「会員企業を守りたいキャンペーン」に伴う紹介運動を展開したことから、保険料収入においては前年より増加に繋がった。

また、鹿児島県の委託事業である「かごしま出合いサポートセンター」は、県内各地で出張登録会を数多く開催したが、開設から2年が立ち更新を行わない登録者も多く、結果的には会員数は1000名以下となった。

### 3. 公益法人制度が求める法人会運営・管理の強化

法人会は公益法人として、理事会・総会の運営や行政庁への書類提出など、適正な運営に心がける必要があることから、県連は、各単位会へ情報提供を行った。

また、全法連で強化がうたわれている「事務局のあり方」について、元年度は、事務局職員の退職等による異動もなく、日々の運営も順調に行われた。

一方、1月以降、日本国内でも新型コロナウイルスの感染者が増えるにつれ、県内の法人会でも多くのイベントや会議が中止となり、年度末の活動においてその影響があった。